

## ボイス運動の展開

三重大学名誉教授・招へい教授

石田 正昭

1      ボイス運動は J A 御殿場市が掲げる職員規範で  
2      あるが、これを職員みずからが起案・文章化した  
3      とされる。それを紹介すると、  
4      あいさつで「声」を出す  
5      組合員の「声」を聞く  
6      自分で考え「声」を出して  
7      行動できる職員づくりがボイス運動です  
8      というものである。

9      協同組合は、「組合員のニーズと願いをかなえ  
10     る」ことを目的とする自主・自立の組織であるか  
11     ら、組合員の声を聞くことなしにその目的を達成  
12     することはできない。そうした協同組合の特性を  
13     的確に表現した職員規範である。

14     御殿場市は、戦前、賀川豊彦が農民福音学校高  
15     根学園を創設した協同組合ゆかりの地であり、農  
16     民福祉のために農村指導者の教育が行われたほか、  
17     託児所、食肉加工所もつくられた。託児所は現在  
18     も「高根学園保育所」として存続し、食肉加工所  
19     は「富士ハム」と命名され、ハム・ソーセージ・  
20     ベーコンを製造・販売した。

21     富士ハムは一〇年余りで歴史を閉じたが、そこ  
22     で育った技術者・勝又喜六は、創設期の「高崎ハ  
23     ム」に招へいされ、製造技術の確立をはかったこ  
24     とで知られる。

25     こうした賀川豊彦の遺産を受けつぐ御殿場の地

26 で、協同組合らしい職員規範が J A 職員によって  
27 つくられたことに感慨を覚える。

28 なぜ感慨を覚えるかという、それが、各事業  
29 連が行っている C S（組合員・利用者満足）向上  
30 運動の上位概念を形成するからである。

31 C S 向上運動は、J A 職員の「知識」「マナー」  
32 「目標達成の意識づけ」の向上をめざす運動であ  
33 るが、問題は、その運動が事業連ごとに分立して  
34 行われ、事業連主導型の J A づくりに終わってい  
35 ることである。

36 総合 J A とはいうものの、総合性が欠如したま  
37 ま、たて割りの事業体制が強化されている。この  
38 たて割りの事業体制は J A が求め、事業連が求め  
39 た結果とみられるが、J A の主体性の欠如を表し  
40 ているとも考えられる。

41 C S 向上運動を否定しているのではない。組合  
42 員と日常的に接する支店・事業所で、組合員と良  
43 好なコミュニケーションをはかることは、協同組  
44 合にとって決定的に重要である。

45 だからこそ、各事業連が行う C S 向上運動の上  
46 位概念なり、規範を J A が保持することが大切に  
47 なるのである。そう思っていた矢先に、講演会に  
48 招かれたことから、J A 御殿場市のボイス運動と  
49 出会うこととなった。

50 協同組合運動は、役職員の自発的な学習と実践  
51 によって、より豊かなものになるという性質をも  
52 っている。J A 御殿場市の職員規範は、私には「声  
53 を出し、声を聞き、声を活かす」ことを J A 運動  
54 の原点としているように聞こえる。各 J A におい  
55 ても、こうした原点をもちながら C S 向上運動に

56 取り組んでもらいたい。 (いしだ まさあき)

57

58

59

60